



世田谷区誌研究会 会報

令和8年3月号

NO60

編集人 野岸敏雄
天海敏彦

連絡先：kushiken0817@yahoo.co.jp

ホームページ：<https://setagaya-kushiken.jimdofree.com/>

三月というのは不思議な月で、寒さが残っているくせに、どこかそわそわと春の気配が漂います。梅がほころび、河津桜が咲き桜前線の北上に花見をいつするか、花粉症対策、道を歩けば、袴姿の女学生、知らないうちに背筋が伸びるような、そんな季節です。

さて、令和七年度の八回にわたる講演会も、無事に幕を閉じました。ご参加くださった皆さまには、あらためてお礼を申し上げます。思えばこの五年間、私たちは講演会を中心に会を運営してきました。講師のお話を聴き、拍手をして、はいお疲れさまでした、と散会する—そんな流れがすっかり定着していました。

もちろん、それが好きだという方が多いこともよく存じています。気軽で、負担が少なく、知識だけはちゃんと持ち帰れる。悪くないやり方です。しかし毎回の講演会は赤字続きです。会員数も高齢化や趣味の多様化でじわりじわりと減少してます。これまで繰り越し金でなんとかしてきたものの、そろそろ“繰り越し金”にも限界が見えてきました。

時代の変化は、こちらの都合を待ってはくれません。

朝日新聞の発行部数は、2010年の793万部から、2025年には321万部へ。スマホの普及率は4%から98%へ。世田谷の小さな史跡も、スマホひとつで調べられる時代です。極めつけは2022年のChatGPT公開で、翌年からは生成AIがあつという間に生活のあちこちに入り込んできました。試しにAIに史跡の由来を尋ねるとそれなりの答えが出てきます、間違ったところを指摘すると直した答えになり、AIの学習には驚くものがあります。また、世田谷の史跡をテーマに民話や小説を美談とか悲劇で作成して依頼すればびっくりするほどの用意してくれます。

昭和25年に発足した世田谷区誌研究会も、こうした時代の波を何度もくぐり抜けて今日まで続いてきました。ならば、今回もまた、ひとつ新しい泳ぎ方を試す時期なのかもしれません。従来の気軽で、負担がない知識吸収の講演会はYouTubeや生成AI、に任せて、「連続講座」という形をとることにいたしました。

連続講座は、講師と受講者が毎回、顔を合わせ、回を重ねるうちに自然と会話が生まれ、学びが“共有の時間”になるような場をつくります。この会の意図は論語の勉強だけではありません。「世田谷」に関心のある方々が集り 交流の場としてそれぞれの世田谷の思いを大きくして欲しいという場の提供です。

会としては大きな賭けです。けれど、世田谷の歴史を愛する皆さまとなら、きっと新しい風景が見られるはずだと信じています。

春は、変わることを後押ししてくれる季節です。令和八年度の新しい試みに、どうぞお付き合いください。

3月1日に世田谷区の広報・広場に掲載します

声を出して論語を学ぼう

講師 山口謠司氏

場所 ひだまり友遊会館

年10回 毎月第二土曜日13時から2時間

費用 1万円 参加者 抽選

詳細・申込はホームページから